

CSR REPORT 2019

 NIKKEI PRINTING INC.

特集
私のサステナブル



エン

特集 私のサステナブル

三方だけではない、エブリバディハッピー
日経印刷のハッピーチェーン……、私が続けること。

受注産業のど真ん中を行く印刷業。「注文通り」「期待通り」の仕事で信頼を得て「リピート（繰り返し注文）」をいただく。それが受注産業の生命線です。私たちは「リピート」を継続し、環境によく、地球によく、未来によくという社会課題、価値観や労働環境の多様化に伴う社内課題に日々取り組んでいます。「リピート」を生む「お客さまの満足」と、日常の業務で感じる「社員一人ひとりの満足」のバランスがとれ、さらにトレンドのSDGs（持続可能な開発目標）に対応する仕組みを図解してみました。三方だけではなく、四方も八方もハッピーになる構え「注文通り」の図が出来上がりました。名付けて「ハッピーチェーン」。私たちのサステイナビリティの図です。特集のインタビュウでは、営業・製造・管理各部門から各世代を代表する社員4名に、ハッピーチェーンを担う「それぞれのサステナブル」について聞いてみました。



「未来よし」

「地球よし」

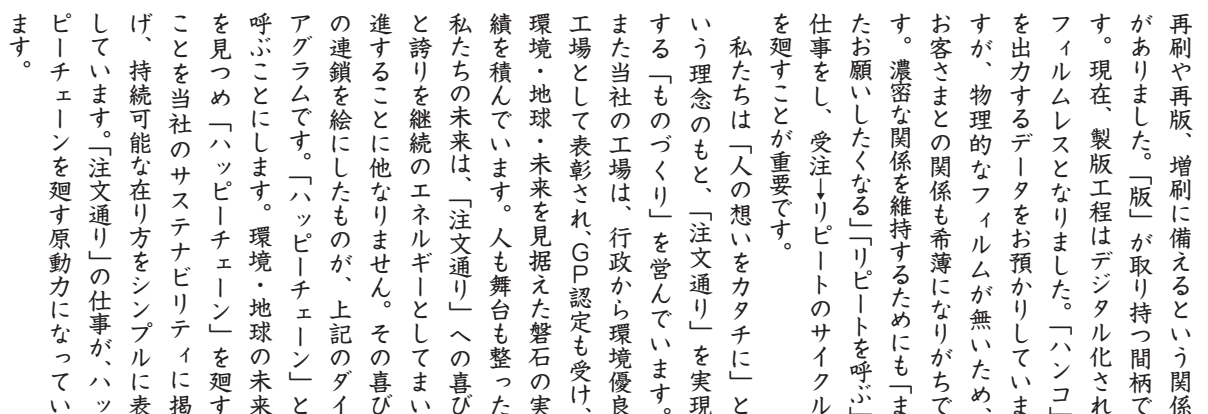
「環境よし」

私たち（売り手）は「注文通り」の仕事をするプロフェッショナルです。プロフェッショナルは、お客さま（買い手）の「顧客（買い手の買い手）エンドユーザー（以下エンド）の皆さま」を満足させるお手伝いをします。

「注文通り」といっても「言われるがまま」ではありません。「より解りやすく」「より伝わりやすく」「より美しく」「より使いやすく」「よりリーズナブルに」というエンドの皆さまの要求を満たすこと。エンドの皆さまの喜びは、お客さまの満足。私たちへの「リピート（繰り返し注文）」につながります。

受注産業の本流を行く印刷業では、元々「版（フィルム）」をお預かりし、

要求された価値を届けるプロフェッショナルであり続けること



お客さまの期待を 超える提案

経験豊富な先輩から情報を収集し、
印刷のプロならではのアイデアをご提供。

第四営業部 第3課

藤森 みのり

入社2年目

入社2年目を迎えた今、独り立ちする形で先輩から既存のお客さまを引き継ぎ、ご提案から納品まで一連の流れを一人で担当するようにになりました。一つひとつの工程を丁寧に、細かい気配りを心がけることでお客さまに一定の評価をいただいています。ですが、まだまだ知識と経験が足らず、お客さまの期待を超えるご提案には至っていないと感じています。ご要望通りのものを納めるのは最低条件であり、お客さまとの関係を一歩先に進めるには、「そんな方法もあるんだ」という驚きや、「本当にいいものが作れた」という感動をご提供する必要があると思っています。不足している知識や経験を補い一歩踏み込んだ提案をするためには、先輩方とのコミュニケーションを高め、経験に基づいた情報を引き出す必要があります。お客さまと目的を共有した上で印刷のプロフェッショナルならではのアイデアをご提供すること、お客さまとともに悩み、検討を重ねながら期待以上の製品をつくること、お客さまとの間に揺るぎない信頼関係を築く一番の方法だと思っています。今後も探究心を持って仕事に取り組むことで自分自身の経験値を高め、より多くのお客さまに信頼していただける営業として成長していきたいと思っています。

対面営業への こだわり

お客さまのためにできることを常に考え、
プラスアルファのご提案を心掛ける。

常にお客さまに喜んでいただきた
いという思いを持って、日々の営業
活動に取り組んでいます。お客さま
のご注文通りに製品を納めることは
もちろんですが、さらにご満足のた
だくためにはお客さまのご指示に
沿って機械的に進めるのではなく、
プラスアルファのご提案を付け加え
ることが大切です。「お客さまの負
担を減らせる方法はないか」や「時
間を短縮するにはどうすれば良い
か」など、常にお客さまの視点に立
ち、私たちにできることを探る姿勢
を持ち続けたいと思っています。そ
のために、まずはお客さまのローカ
ルルールを理解すること、さらにお
客さまのその先のお客さまの状況ま

でイメージを広げて行動する必要が
あります。製品を納めて終わりでは
なく、次の段階でどのように使用さ
れるのかといった細かい状況をつか
むことで、提案の幅がぐっと広が
ります。今後の目標として、業界全体
の動向やトレンドにも目を向け、よ
り踏み込んだ提案ができるようにな
りたいと思っています。

お客さまとのお付き合いの「核」
になるのは、電話やメールのやり取
りで済ませるのではなく、直接お会
いして話を聞くことです。対面して
お話を伺いすることが、お客さま
との距離を縮める第一歩になると確
信しています。

第二営業部 第1課

傳 治樹

入社7年目

合格点以上の 品質を追求する

オペレーション技術の標準化を徹底し、満足度の高い仕上がりを実現する。

印刷部 G2印刷2課

田中 譲二

入社18年目

印刷部のチームリーダーとして、品質の最終チェックやオペレーターの技術指導などを担当しています。ご要望通りの色を再現するために、まずは印刷機のメンテナンス管理を徹底すること、またどのオペレーターが担当しても仕上りの品質を維持できるように、全体のレベルアップをめざしています。そのために作業の手順やノウハウを文書化し、全てのオペレーターが共有。技

術レベルの標準化を図ることで、品質のばらつきをなくす努力が続けています。私たちがめざすのは合格点をいただける品質ではなく、さらに一段上のレベルを追求すること。決して妥協することなく、もう一歩踏み込んだ最良の仕上がりを見据えて、日々の作業に取り組んでいます。後輩への技術指導を行うためには、自分自身の知識と技術もアップ

機それぞれに異なる特性を把握するために細かいデータを収集。指導にあたるリーダー間で情報交換し、根拠のある指導ができるように研鑽を積んでいます。お客さまによりご満足いただくためには、お客さまの意図や表現イメージを的確につかむことが大切です。今後さらに制作や営業との連携を深め、情報の共有に努めたいと思っています。

40年目の挑戦

日経印刷が大好きだからこそ、
社会的責任を果たすためのサポートを続けたい。

人事総務部 業務改善支援課

山田 一則

入社44年目

約40年前に日経印刷に入社してから、印刷、製版、生産管理など、営業以外の部署を経験。50才を過ぎ、業務改善支援室に移ってから、化学物質管理やリサイクル・廃棄物管理、FSC® COC認証の確認業務など、環境負荷を低減する事業活動の推進に力を注いできました。日経印刷は、印刷事業者としてはいち早く環境対策に取り組み、ISO14001の取得をはじめ、旗艦工場であるグラフィックガーデンは、グリーンプリンティング工場の認定を取得。2012年には、印刷産業環境優良工場表彰において経済産業大臣賞を受賞するなど、環境マネジメントシステムを構築しています。これらの成果は、ともに働く多くの仲間が賛同してくれたからこそ実現できたものであり、革新を続ける日経印刷の歴史でもあります。そのお手伝いができたことを、とても嬉しく思っています。

私自身は60才で定年退職した後、再雇用していただき、危険物取扱者免状やエコ検定の取得など、日経印刷の企業価値向上に貢献するための新しい挑戦を続けています。私は日経印刷が大好きなので、向上心を持ちながら、これからも日経印刷の発展の一助になりたいと思っています。

グリーンプリンティング（GP）認定とは？



GREEN PRINTING JPFI

GP認定制度は、日本印刷産業連合会が認定機関となって、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な証明によって認定され、認定マーク（GPマーク）が表示できる制度です。

印刷工場・資機材・印刷製品のそれぞれに対する認定制度によって成り立っています。

SDGs（持続可能な開発目標）とは？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された持続可能な開発目標（SDGs）。

2015年の国際サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

製造資本

財務資本

自然資本

アウトプット

書籍

官公庁白書

企業レポート

企業パンフレット

製品カタログ

製品パンフレット

各種テキスト

各種試験問題

DM

ノベルティ など

アウトカム

社会課題解決

- 安全な生活環境の確保
- 廃棄物リサイクル率 100%

企業価値の向上

- 安全で働きやすく、働きがいのある環境の提供
- 取引先との対等で公正な関係



コンプライアンス
遵守

ライフスタイルの
変化

IT化

スマート社会の
到来

リスクの多様化

価値創造モデル

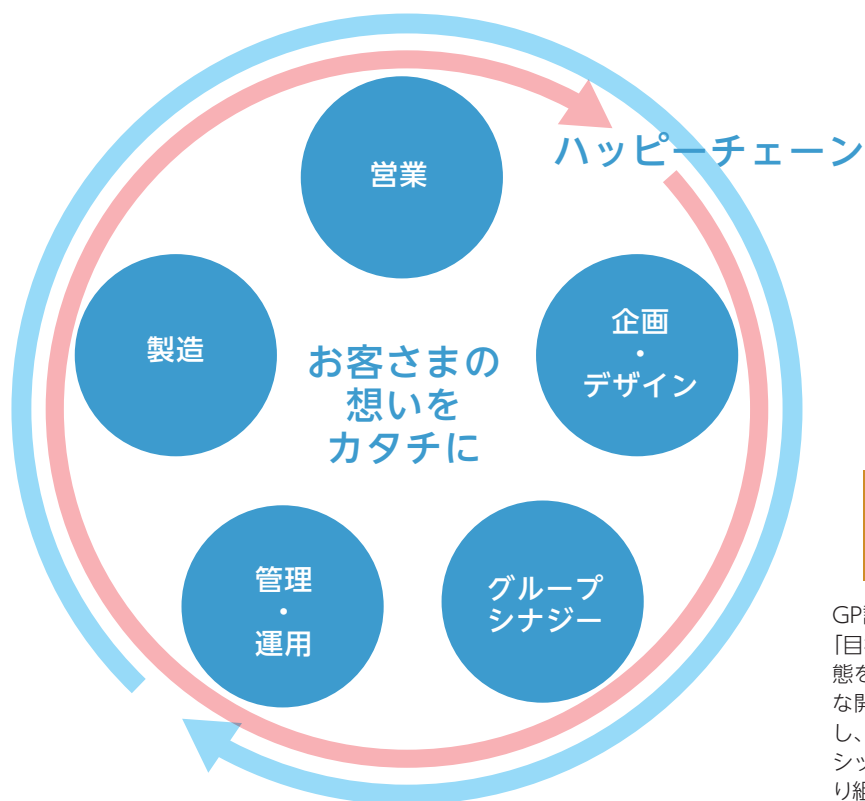
グリーンプリンティング(GP)認定工場での生産、顧客満足&社員満足を追求するハッピーチェーンを遂行し、国際目標であるSDGs(持続可能な開発目標)達成のパートナーとして製品を創出。社会とともに持続的な成長を果たしたいと考えています。

インプット

人的・知的資本

社会・関係資本

価値創造の基盤となる日経印刷の強み



GREEN PRINTING JFPI
F-D10008
グラフィックガーデン
本工場は、環境に配慮
したGP認定工場です。



GP認定工場への発注は、SDGs「目標12:持続可能な生産消費形態を確保する」「目標17:持続可能な開発のための実施手段を強化し、目標達成のためのパートナーシップを活性化」への具体的な取り組みになります。

事業環境

地球温暖化
気候変動
異常気象

少子高齢化

労働環境にお
ける健康・安全へ
の配慮の要請

用紙価格の
高騰

電気

前年比
0.7%
増6,752
千kwh

エネルギー使用効率 UP

メインの菊全8色機3台をUV印刷対応機としたことで、大幅な電力消費増となりました。一方、江東区の工場設備を浮間工場に移設したことで、稼働電力は変わらないまま床面積が大幅に減り、全体としてはエネルギー効率が上がったため、印刷設備の消費電力増を抑えることができました。

(千kwh)

本社	243
G2	5,140
浮間	1,316
CS	53

ガス

前年比
17.7%
増269,389
m³

機器制御方法の変更で増加

ガス使用量の増加要因としては、印刷関連で設備の増加が行われたことと、設備管理会社よりデマンド対策として機器制御方法の変更と冷凍機の設定温度の変更を依頼されたことにより、下期の冷凍機のガス使用量が増えたことが挙げられます。

(m³)

G2 269,389

水道

前年比
12.9%
増14,412
m³

省エネ効果の高い冷凍機への検討開始

水の使用は、全体の約6割を冷凍機で使用しています。冷凍機は11年目になり、現在より省エネ効果の高い、ガスでは無く電気で冷やす設備への入れ替えの検討を始めました。その影響で使用量が大幅に増加となりました。

(m³)

G2	13,510
浮間	840
CS	62

環境配慮
(省エネルギー・ゼロエミッション・他)

企業が経済活動を行う上で、電気やガスといったエネルギーを使用し、製品・サービスを世に送り出すとともに、廃棄物を排出することは必然とされています。当社では企業としての社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムを構築し、省エネ・廃棄物の削減と再資源化・環境法規制の順守等に取り組んでいます。

※事業所略称

G2: グラフィックガーデン

浮間: 浮間工場

CS: Creative Square

▶エネルギー原単位集計

エネルギー原単位 (全工場)

生産額 3,747百万
原油換算 1,932kℓ

0.515 kℓ/100万円

前年度原単位改善実績

2.3% → -1.2%

省エネ法努力目標

年平均**1%**

排出係数

電気: 東京電力2011年度排出係数
(0.000375t-CO₂/kwh)

ガス: 環境省 温室効果ガス算定・
報告マニュアルより
千Nm³×単位発熱量(45)
×排出係数(0.0136)
×44/12

水道: 東京都水道局排出係数
0.2kg/m³

副産物計: リサイクル計
+ 廃棄物計

リサイクル率: リサイクル計
÷ 副産物計

▶FSC®COC 認証とは



責任ある森林管理
のマーク

日経印刷は、環境に配慮した日々の事業活動によって、企業としての社会的責任を果たすべく、2007年に環境方針を制定しました。このCOC認証の取得もこの方針に沿ったものです。

これにより、環境に配慮した印刷製品のひとつとして、FSC認証製品をお客さまへご提供することが可能となりました。

FSC (Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会) には、森林の管理を認証する「FM(Forest Management: 森林管理) 認証」と、認証された森林から産出された木材の適切な加工・流通を認証する「COC (Chain of Custody: 加工・流通過程の管理) 認証」があり、認証材以外のものが混入しないよう、各加工・流通工程で適切に管理された製品には、その証としてロゴマークがつけられます。

CO₂

前年比

4%
増

3,149
t

設備増により増加

CO₂の換算係数は毎年変化します。そのまま当てはめると増減の傾向が把握できないので、比較のため2011年度の係数で算出しています。CO₂の増減には、ガスより電気の影響が大きいため節電が効果的ですが、設備の増加もあり2018年度は4%増加となりました。

	(t)
電気	2,532
ガス	614
水道	3

廃棄物

前年比

1%
増

火災リスクを抑えるために

プラごみと紙ごみの一部をRPF(固形燃料)化していましたが、火災のリスクが高く、廃洗浄布(廃油が浸透した不織布)のRPF化が困難になりました。新たな処理先を探し現在はフラフ燃料化ができる業者に委託しています。

	(t)
一般廃棄物	10
廃油	4

※フラフ燃料: 破砕した状態の燃料化



リサイクル

前年比

0%

2,983
t

ゼロエミッション継続

リサイクル品の年間排出量約3,000tに対し、廃棄物の年間排出量は約15tです。リサイクル率は99%台になり、ほぼゼロエミッションの状態を維持しています。現在は37種類の分別を進めることで、ゴミとしての廃棄物の排出を減らしています。

	(t)
紙類	2,686
プラ類	25
アルミ版	174
サーマル	98
定着液	0

リサイクル率

前年比

0%

100
%

	(t)
副産物計	2,999

人事データ

	女性	男性	合計
平均年齢	31.3歳	40.5歳	35.9歳
平均勤続年数	7.2年	14.2年	13.1年
新卒採用者	11名	13名	24名

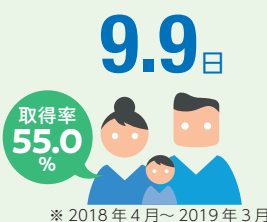
正社員と契約社員合わせて407名、パート従業員も合わせると451名が働いています。毎年新卒社員も入社しており、若い社員の活躍が多い職場になっています。



平均所定外労働時間



平均有休取得日数



各部署で勤務効率化を目指し、不要な残業時間を減らすよう取り組んでいます。また、出産・育児休暇などの取得も年々増加しており、ライフイベントを迎えても長く働きたいという社員が増えてきています。

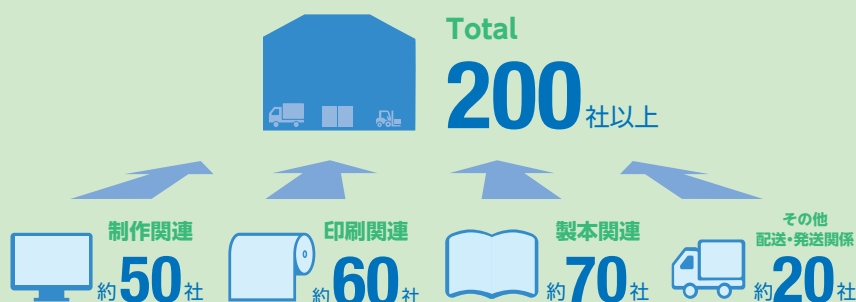
子の看護休暇
利用者数出産・介護休暇
利用者数育児短時間勤務制度
利用者数

パートナー会社への依頼



当社は、全生産の約50%をパートナー会社に委託しており、パートナー会社との協業はなくてはならないものといえます。現在お取引をさせていただいている会社数は、製造関連のほかその他配送・発送関連のパートナー会社も合わせると200社以上に上ります。「お互いに相談しあえる関係」を目指し、企業理念の「公正な購買取引の慣行」のもと、全てのパートナー会社に対して、公正・透明な発注・購買活動を心がけています。

パートナー会社の内訳



従業員とともに

会社を支える従業員が働きやすい職場であることが安定した事業継続の要だと考えます。様々な人事制度のほか、人材育成の一環として定額制セミナーの受講なども行っています。

パートナー会社とともに

日経印刷は、パートナー会社の皆様とコミュニケーションを図り、良好な関係を構築していくことで、品質、納期、環境保全の維持向上にも取り組んでいます。

お客さまとともに

持続的で健全な事業を継続するために、「お客さまの声」に耳を傾けることで時流を捉え、ニーズを考慮した営業活動に取り組んでいます。

セミナー・工場見学会開催

2018年度 CSRセミナー一覧

持続可能な開発目標(SDGs)とESG経営 3/14

31名 / 21社

CSRの新たな潮流 6/27

51名 / 43社

パリ協定、SDGs、ESG投資の潮流 /
CSRブランド活用事例として、MOTTAINAI
キャンペーンの取り組み事例 11/27

36名 / 30社



CSR報告書の制作業務の中で得た経験やネットワークを活かし、お客さまに情報発信する場として定期的にCSRセミナーを開催しています。また、法人を対象とした工場見学会や印刷に関するセミナーを開催し、幅広い層のお客さまにご来場いただきました。

2018年度 グラフィックガーデンセミナー一覧

早春の印刷実感型見学会 2/8

32名 / 15社

特殊加工・付加価値印刷
で魅せるものづくり 4/19

42名 / 25社

商品の魅力を伝える
色の世界 6/14

37名 / 31社

印刷実感型
見学会&相談会 7/19

45名 / 14社

無料工場見学会 9/5

35名 / 15社

LED-UV印刷工場
見学会 11/8

42名 / 24社

生活者のインサイトを探り、
ヒット率アップ！
商品開発の新技术 11/20

27名 / 19社



じゆう帳寄贈 (2018年12月現在)

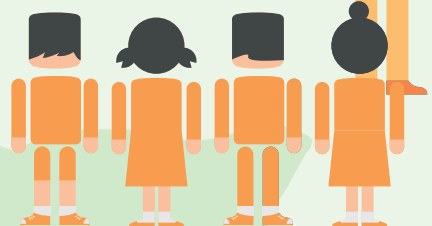
若手社員の集う晴朗塾がCSR活動として残紙をリサイクルした「じゆう帳」の作成を始めて4年。小学校への寄贈は3,000冊を超え、小学生の社会科見学会でも記念品として配布。多くの小学生の皆さんにお使いいただいています。



合計
3,000冊

工場見学の受け入れ

近隣の小学校の社会科見学をはじめ、多くの学校や団体様の工場見学を受け入れています。DTPのデモや印刷の原理、製本の工程についての説明を行い、その後実際の製造現場を見学します。また、特別支援学校や民間の障害者就労支援施設の皆さんの見学会や専門学校の生徒さんへのビジネスインターンシップの受け入れも行っています。



小学校
691名9校

中学校
17名3校

その他学校
89名4校

板橋区関連
3名1件

地域・社会とともに

グラフィックガーデンではインターンシップの受け入れや、学生・生徒の皆さんを中心にものづくりの現場を見学していただく工場見学を行っています。

企業概要

日経印刷株式会社

代 表 者 代表取締役社長 広瀬 智
本社所在地 東京都千代田区飯田橋 2-15-5
電 話 03-6758-1001
創 業 1964年10月
資 本 金 8,000万円
売 上 高 106億6,200万円(2018年12月期)
従 業 員 数 451名(2018年12月現在)
(パートアルバイト含む)
業 務 内 容 企画・デザイン、編集、ライティング/DTP、
出力等プリプレス工程全般/オフセット
印刷(枚葉)/プリント・オン・デマンド/
製本一式/表面加工/紙器・加工/仕分・
梱包・発送/CD、DVD等メディア制作/
Web制作/電子出版/白書製造請負、出版

企業情報

日経印刷の情報

日経印刷ウェブサイト <https://www.nik-prt.co.jp/> の
各コンテンツをご覧ください。

個人情報保護方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

品質方針、環境方針、ISMS基本方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

認証取得

ISO 14001:EMS

ISO 27001:ISMS(本社・グラフィックガーデン)

プライバシーマーク認定(JIS Q 15001)

FSC® COC 認証

グリーンプリンティング工場認定(グラフィックガーデン)

Japan Color 標準印刷認証(グラフィックガーデン)

Japan Color プルーフ運用認証(グラフィックガーデン)

Japan Color マッチング認証(グラフィックガーデン)

編集方針

日経印刷はこのCSRレポートを通して「事業活動」、「社会」、「環境」の観点でステークホルダーの皆様の期待に応えるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社をご理解いただき、またステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチに」する情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的にしています。

また、自社のCSRレポート作成を通してCSRを学び、CSRレポート、CSR報告書作成のノウハウを蓄積することで、お客さまにより良いサービスをご提供することを目指しています。

報告対象組織

日経印刷株式会社

報告対象期間

原則として、2018年度(2018年1月~2018年12月)の活動を対象期間としていますが、一部2019年のデータも含まれています。

報告対象分野

本レポートは日経印刷の事業活動、社会・環境に関する取り組みを対象としています。

ご意見・お問い合わせ

日経印刷のCSRへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。CSR活動やCSRレポートの改善にいかしてまいります。

発 行 月 2019年11月

所 轄 部 署 日経印刷株式会社 管理部門 人事総務部

連 絡 先 TEL 03-6758-1001

FAX 03-3263-5814

日経印刷に関わる 全ての人を笑顔に

顧客満足度と
社員満足度の向上を両輪として、
さらなる発展をめざす。

代表取締役社長
広瀬 智

2018年に日本創発グループへの経営参画、翌年には社長が交代するなど、日経印刷はまさに変革の時を迎えています。今後さらなる発展を実現するために、私は舵とり役として、顧客満足度と社員満足度の向上の2つをスローガンに掲げています。

日経印刷は、スピーディな対応力と製品の高い品質を徹底することで、多くのお客さまにご支持をいただいていると自負しています。その強みに磨きをかけていくことは言うまでもありませんが、お客さまに今まで以上の満足をご提供するためには、時代とともに変化する幅広いご要望にお応えする受け皿と、柔軟な対応力が必要だと思っています。そのバックボーンとなるのが、同じ日本創発のグループ企業です。バラエティ豊かな各社のリソースを組み合わせ、そのシナジー効果を生かしたアイデアをご提案することが、お客さまに選ばれ続ける企業であるために必要不可欠だと思っています。

お客さまと平行して、日経印刷で働く社員の満足度も向上させるために、やりがいを感じながら成長できる職場環境をつくることも大きなミッションとして捉えています。人はそれぞれ価値観が異なりますが、集団が組織として成果を上げるためには、これから進むべきビジョンを共有し、同じ目的に向かう必要があります。そのためには上司と部下、先輩と後輩が対話によって意思の疎通を図り、より相手を理解しようとする姿勢が大切であり、コミュニケーションエラーをなくすることが働きやすさや仕事へのモチベーションを支えてくれるはずです。日経印刷は、大切なお客さま、社員とそれを支える家族を笑顔にするために、これからも企業としてできることを追求していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsの目標を掲げたお客さまへ



12 つくる責任
つかう責任



グリーンプリンティング (GP) 認定工場「グラフィックガーデン (G2)」から事業活動で必要とされる印刷サービス・印刷製品を調達すると、お客さまがSDGsで目標とする「目標12: つくる責任 つかう責任」に向けた具体的な取り組みとして実行したことになります。



グリーンプリンティング (GP) 認定とは?

GP認定制度は、日本印刷産業連合会が認定機関となっており、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な証明によって認定され、認定マーク (GPマーク) が表示できる制度です。

印刷工場・資機材・印刷製品のそれぞれに対する認定制度によって成り立っています。

GP 認定とSDGs

12 つくる責任
つかう責任



GP認定は、地域住民から地球規模での環境対応が基準となっています。この基準は、随時見直し、労働安全衛生、緊急時対応の基準の追加などが行われています。SDGsで掲げられた「目標12: 持続可能な生産消費形態を確保する」に対応し、つくる側の要件を満たすことができます。



VOCの発生・排出抑制等



水なし印刷
湿し水の管理等



省エネ活動等



古紙のリサイクル
リサイクル製品の使用
デジタル化等



森林保全に配慮した
資材の使用

SDGsとは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。エス・ディー・ジー・ズと呼ばれます。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

持続可能な社会を目指す世界共通目標は昨年からの企業レポートのトレンドとして取り上げられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



印刷物にGPマークを表示するには?

1. GP認定工場での印刷を行い
 2. 印刷資材の環境配慮について一定水準以上を満たす場合
- 1・2を満たし、工程の環境配慮が全工程が否か、印刷資材の配慮水準がどのレベルか、この組み合わせによってワンスターからスリースターまで3種の表示があります。スターの数が多いほど環境配慮基準が高いことを示します。



GREEN PRINTING JFPI

F-D10008

グラフィックガーデン

本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。

GPマークは、印刷製品の製造工程と印刷資材が環境配慮されていることを示します

..... 認定工場の認定番号

..... 認定工場名



GREEN PRINTING JFPI

P-D10008

この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

..... 環境配慮の度合いを3段階で表示



日経印刷

検索